



# 第 7 号 ぐるーぷ「倶楽志」in 飯能

—すむ、きる、たべる文化交流—  
<http://groupkurashi.seesaa.net>

代表 相田通子  
〒357-0045  
飯能市笠縫409-7  
TEL/FAX 042-974-3538  
sugita22@mve.biglobe.ne.jp

## 総会および講演会 —浅見徳男氏講演会—

2009 年 4 月 4 日 (土)、飯能市郷土館において、ぐるーぷ倶楽志の総会を開催しました。

昨年より飯能の女丈夫<田中かく子>を取り上げましたが、さらにかく子を取り巻く人物像(荻野吟子、井上頼圀)や文通を通じた時代背景などもっと詳しくやってほしいという要望がとても多く、その手紙に基づいた本もついに「自費出版」されました。このような背景で、総会終了後に、浅見徳男氏による講演会を開催しました。



### 浅見徳男氏講演「田中かく」

2009 年 4 月 4 日飯能市郷土館において、浅見徳男氏による講演会「田中かく子」が開催されました。講演の概要を以下にまとめます。私が田中かく子の書簡を知ったのは飯能市史編纂の事業に携わっていたときでした。

飯能は市場町として栄えるのですが、当時久下分村、今日の仲町ですが、そこで書籍を扱う田中一誠堂を調査

しておりました。そのときに手紙の束を発見しま



浅見徳男氏

して、これは貴重なものだと思います、飯能市史にも一部載せました。



田中かく子

田中かくさんのお父さんは忠三と申しまして、「田中屋」という旅籠(旅館)を営んでいました。かくさんは一人娘で安政 6 年 (1859) 2 月 28 日生まれで、9 歳頃から小能志摩という神宮の寺子屋で勉強されました。この寺子屋がのちに飯能第一小学校へと発展するのですが、明治 5 年、かくさんは江戸 (東京) へ奉公に出ています。かくさんが 14 歳のときですが、学制領布された年です。

かくさんは東京で井上頼圀という少壮気鋭の国学者の神習舎(井上頼圀私塾)に明治 6 年に入門します。井上頼圀は幕末のころから飯能へ出張教授し、田中屋旅館で一泊する習わしでした。

東京の井上塾で荻野吟子(妻沼出身、女医第 1 号・埼玉三偉人の一人)と出会うのですが、吟子



荻野吟子

はかくさんより 7 歳年上で松本万年のもとで学んできた人ですが同じ熊谷県出身の親しみ(明治 9 年に埼玉県になる)もあったのででしょう生涯のお付き合いをします。

かくさんは権訓導(助教師、訓導=先生)という資格を得て、明治 7 年に甲府の内藤ます子という才色兼備の女性に教師として求められ、荻野吟子とともに甲府に出向きます。



かく子、吟子、頼圀の手紙

内藤ます子の書簡によりますと、明治 8 年 4 月に飯能から甲府へ出発するさい、八王子で 1 泊、3 泊 4 日の旅だったこともわかります。明治 8 年 5 月に女学校を開校するのですが 8 月に内藤ます子が目の病気のため東京での治療により休校になってしまいます。

飯能にもどってきた田中かくさんは明治 9 年に父忠三さんを亡くします。女性家族であったのでかくさんが大黒柱になるわけです。そして貞助(初代)を迎え事業に乗り出すのです。



井上頼圀

明治 29 年には新聞販売所を設けています。国定教科書の販売も井上頼圀に指導受けながら事業拡大し才覚を現します。お茶の販売、のちに新聞を発行、『飯能時報』(月 1 回発行)であります。

田中かくさんと荻野吟子との文通はずっと続き、明治 41 年に北海道から浅草近い小梅町に移っていますが、飯能での水害に対しかくさんへ見

舞いのはがきを出しています。

その後も田中かくさんは「一誠堂のオバアちゃん」として皆から親しまれ飯能に多くの文化を残しましたが、昭和 28 年 2 月 7 日に 95 歳で永眠されました。墓地は飯能の名利能仁寺にあります。

◇◇

## 「白子 長念寺で」 仲秋の名月を鑑賞しよう

2009 年 10 月 3 日(土)「仲秋の名月を鑑賞しよう」として、白子長念寺で飯能市のエコツアーリズムを実施いたしました。今回の企画は、エコツアーリズムを実施している、白子五人衆とぐるーぷ倶楽志 in 飯能の二つのグループが協働で計画、実施したものです。



内容は以下の通りです：

- ①白子地域のかって実施されていた十五夜の風習を再現する
- ②お供え物は参加者に畑から収穫していただく
- ③飾り花は「野の花」とし参加者に摘んでいただく
- ④「だんご」を参加者みなさんで作る
- ⑤夕食は畑から収穫した野菜、だんご、うどん<てんぷら付>
- ⑥俳句教室を開催、月を鑑賞しながら参加者に一句作っていただく
- ⑦住職より十五夜に関してお話をいただく

二つのグループの得意としている、企画内容は参加者の皆様に大好評をいただきました。特に、お供え物の仕方、野の花の飾り花等は、参加者の合作で素晴らしい物になりました。

又、皆さんが創られた「俳句」は初心者とは思えない秀作が多々あり、それぞれを發表しあい、和氣藹々と拍手が起こっていました。

残念なことは、肝心の「お月さま」が雲にかくれてしまい、満月を鑑賞することは出来ませんでした。時折のぞく月の光に、境内に歓声があがっていました。今年も実施できたかと思っっています。(白子五人衆： 石田安良)



### 歴史講座「能仁寺と飯能」

2009 年 11 月 29 日、飯能の能仁寺において、第 1 回歴史講座「能仁寺と飯能」が開催されました。浅見徳男氏を講師に、五百年の歴史を誇る飯能の名刹・能仁寺について、様々な角度から興味深い話を伺いました。庭の紅葉を観ながらお弁当をいただきました。そして午後は、お寺内部の見学と裏山のお墓散策を楽しみました。

### 講演要旨「能仁寺と飯能」

私は能仁寺には幾度となく訪ねているのですが、紅葉した能仁寺はとても美しいですね。きょうは私は田中かくさんの本を書いて、かくさんの菩提寺である能仁寺で講演したら、と梶田さんからお話があり、ご住職に快諾していただき実現しました。

テーマは「飯能の領主・黒田氏と能仁寺」ということですが、飯能の歴史を語るときに能仁寺を紹介せずに飯能を語れません。

「飯能の領主・黒田氏」の先祖の話から。中世

武士・加治氏（のちの中山氏）は「吾妻鏡」に加治氏が登場してきますが、加治氏の系譜が黒田氏につながってきます。

十一代加治（中山）家勝が飯能中山に住んだので中山姓を名乗ります。この人物こそ能仁寺を創建したと言われていています。中山家勝は斧屋文達（ふおくもんたつ）というお坊さんを招いて創建しました。

徳川家康が家勝のふたりの子供を近くに置きました。長男の方が幕臣として次男が水戸藩で活躍しますが、それぞれ能仁寺と智観寺を菩提寺にします。

能仁寺を菩提寺とする中山直張の子が直邦という人で父の奥さんの姓である黒田姓を名乗ります。



黒田直邦は徳川綱吉が五代将軍となると柳沢吉保ともに破格の出世をし、能仁寺が大名寺になりました。それまでの能仁寺の御朱印五石は、直邦の庇護の下、五十石になりました。

能仁寺十三世泰州（たいしゅう）和尚は五代将軍徳川綱吉がご病気の際、般若祈祷をして癒し、般若和尚とも呼ばれ親しまれました。

黒田直邦の出世と能仁寺の繁栄・発展とは密接な関係にありました。扁額は当時仏教界のトップである天台宗座主が書かれたものです。

飯能戦争により能仁寺は焼かれるという大変な痛手を受け、それから建て直すまで長い歳月がかかりました。



### 能仁寺のお墓散策

午後から能仁寺本堂や庭園を眺め、黒田家墓地や田中かく家墓地や早川舟平墓地を見学しまし

た。最後は源氏物語研究家で有名な五十嵐力の墓での奥さんの銘文に感動して終わりました。参加者も大満足でした。

参加者には田中かくさんの分家の方、早川舟平子孫夫妻、毛呂の古医学者：権田直助氏（勤皇の志士となり岩倉具視、西郷隆盛などとも交わる）の子孫に關係のある方がわざわざ近所から駆けつけて下さり、いろいろな話をお伺いでき、会場がさらに盛り上がりました。第二回歴史講座が楽しみです。



### 南高麗滝の入りタブの木を訪ねる

— 飯能市エコツーリズムに協力 —

2009 年 12 月 3 日富士浅間神社の裏山にあるタブの木を見たり、昔ながらのの作法ですいとんやこんにやくを作ったり、有意義なひとときを過ごしました。

昨日の天気予報ではすべて雨マーク。どんよりとした曇り空を見上げながら境内へと入ると、かいがいしくお手伝いして下さっている地元の婦人会の方々の真っ白な割烹着とほっかぶりの手ぬぐいがとても新鮮なものを見て一気に心が晴れマーク。今年は昔から伝わっている



すいとんの団子の作り方や、昔は 6 月 28 日富士山信仰の山開き、そして 7 月 27 日山閉じるのときに作られる団子を教わりたいという思いで婦人会（平均年齢 80 才以上）の方々にも加わっていただきました。

そして宮司の武本氏のあいかわらず味わいある語りに耳を傾けると 山開きと、山閉じるの時に大麦や押し麦で作られる神聖な団子を頂くために「おこもり（籠もる）」して夜中の 12 時まで待ち、それを大事に持ち帰り、ずうっと長くカビが生えるまで軒下にぶら下げておき、医者もすぐに行けない山里（当時は歩いたり、自転車では何里の道を往復したそうです）なのでそれを少しずつはがし、菓の代わりに飲んでいたという話はとても貴重で、婦人会の方々が作られた団子（ひよっこみみたいな形）も見ながら、伝統の深さをまざまざ感じました。

そして、いよいよ自治会長の久下氏の案内で雨も次第に強さを増した急な坂道を登りつめる。樹齢 700 年の「タブの木」が今年も壮大にそびえたっている姿は圧倒され、特に頂上から見入る霧や、靄がかかった飯能市内を見渡す風景はまるで「水墨画」の世界に皆一同感極まり、「ツアー組んでもっと知ってもらいたいね」と口々に叫ぶ。そして久下氏がおっしゃるには、昨年「ちょうどいい景観に大きな木が一本立っていてじゃましている」と言われ、村の人々で「切ってしまったんだ」とありがたいお言葉。下りるときも山道が雨でぬかり、はびこっている木の根っこにつまづきながらいつになく緊張し足を踏みしめ、声を掛け合いながら歩く姿は本当に修行者になった気分でした。



帰って婦人会の方々に教わったすいとんや、こんにやく芋から時間をかけて作ってくださったスタッフの手作りのこんにやくなど本当においしかった。そして婦人会の方がおっしゃるには

「ここは調整区域なので若いもんが皆出て行ってしまふ。今やオジイオバアばかり。皆が毎年来てくれるのでとても活気づく、久しぶりに婦人会の人々が集まり作ったすいとんは良かったあ〜。そして本当に楽しかった」といわれ、我々も地元の方々の交流を通して色々なことを学ばせていただき、これが本当のエコツアーかなと実感いたしました。ありがとう！！

{タブに木=クスノキ科の常緑高木}

◇◇

「埼玉ゆかりの三偉人を学ぶ旅」  
に参加して

2009 年 1 月 7 日 (日) に、埼玉県人会主催による日帰りバスツアー「埼玉ゆかりの三偉人を学ぶ旅…塙保己一・渋沢栄一・荻野吟子を訪ねる秋の一日」に私は参加しました。

私は東京生まれなのですが、飯能の梶田通子さんに誘われて、このチャンスを逃がすと、なかなかこのようなコースに行ける機会に恵まれないと思い、7 時 50 分に大宮集合と早かったのですが朝寝坊がちな私もガンバッテ早起きして行ってきました。



バスに乗ると、早速参加者からおいしいサツマイモをいただき、ビールを飲みながらの、私にはハッピーな出発となりました。午前中は塙保己一記念館・生家・墓所を見学しました。記念館で知られざる塙保己一のエピソードを聞いたり、生家はのどかな地（近辺に牛がたいくさんいました）に萱葺き屋根が今も残っていて江戸時代にタイムトリップした気分になりました。（写真参照）。

午後から渋沢栄一記念館・生家を訪ねました。

生家は藍染めで豪農だったとか。その後予定遅れの昼食・郷土料理「煮ぼうどう」は、とてもおいしかった。夕方には、聖天山や荻野吟子記念館を訪ねました。

今回ツアーの私の第一目的は、荻野吟子記念館に行くことでした。記念館には、飯能の田中かくへ荻野吟子が送った手紙が展示されてあったのも嬉しかった。今年田中かくの生誕百五十年記念として浅見徳男著『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』を刊行するにあたって、梶田通子さんと私も関わっていたからです。梶田さんは「吟子の会」会長とも出会い、本をプレゼントしてきたそうです。記念館に展示してくれたら、嬉しいな。



細かく書くと長くなりますので、この辺で全体の感想ですが、地元の人たちが三偉人にたいする尊敬の念が深く誇りとしていることに驚きました。児玉町の塙保己一、深谷市の渋沢栄一、妻沼町の荻野吟子とそれぞれ記念館を創設して顕彰していました。

しかし、三偉人は埼玉県だけでなく、東京にも多くの足跡を残しております。いずれ機会があれば発表して行きたいと思います。塙保己一墓地（四谷愛染院）・温古学会（渋谷）、渋沢栄一墓地（谷中墓地）・銅像（大手町や北区飛鳥山・板橋区大山）、荻野吟子墓地・石像（谷中墓地）など関連個所があります。

埼玉県人会事務局は東京の上野にあるとのことなので、ぜひツアーを組んでみたらいかがでしょう。

（板橋区在住 本橋 良浩）

◇◇



**田中かく子をめぐる女性達**  
**荻野吟子編**

この度、浅見徳男著『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』刊行によって多くの手紙が公開されました。飯能の田中かく子とすぐれた師友との交流が明らかになりました。

特に田中かく子は荻野吟子とともに内藤ます子の誘いにより甲府へ教師に赴く過程の手紙は圧巻です。明治初期の女性教育を考えるうえで大変興味深いものがあります。

田中かく子と荻野吟子の二人は東京の井上塾で出会うのですが、それまでに寺子屋で相当鍛えられていて、すでに教養の深さがあり、埼玉生まれ同志という親しみ以外に、互いに知的好奇心が旺盛でその才能を愛していたのではないかと思います。

手紙は残されていないのですが、私は田中かく子を考えるうえで寺子屋で習った師匠・小能志摩（神官、権田直助・井上頼圀の門人）に大変興味を覚えています。それは荻野吟子の手紙を読むと、吟子のなみなみならぬ文章力は寺子屋で習った師匠・松本万年（儒者）の影響力が大きい気がするからです。万年の女弟子には松本荻江（娘、松本女学校創立）、荻野吟子（女医第 1 号）、生沢クノ（深谷市出身・女医第 2 号）らがいますし、『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』には松本万年が田中かく子の父忠三への手紙 1 通掲載されています。松本万年は小能志摩ら飯能の人とも交流があったのではないかと思います。小能志摩の寺子屋から飯能郷学校へ、さらに飯能第一小学校へ発展しますが、初代校長は権田直助が絶大の信頼を寄せていた名医早川舟平の長子精一郎であることは飯能の人ならご存知でしょう。

井上塾で田中かく子は姉小路良子（麴町小、跡見女校創設にも関わった歌人書家、明治 10 年に皇室に入りのちに権典侍になる人ですが、田中かく子は飯能の明治神宮造営地誘致で協力を求めている）との出会いも興味深いのですが、今回は荻野吟子について知られざる一面を述べてみたい。

荻野吟子については埼玉妻沼や北海道からも伝記は出ていますし、小説『花埋み』や劇『命燃えて』などで多くの人に知られています。

ここではまだ伝記類に知られていないことを、

二つほど述べてみたい。

ひとつは荻野吟子（幼名ぎんと表記）は荻野綾三郎の五女ですが、四女友子との関わりです。友子は慶応 3 年に熊谷市の神官野口秀延の後妻になります。秀延もまた明治 2 年に 43 歳の若さで亡くなります。先妻の遺児長子秀明（のち大膳）は「門人姓名録」（『平田篤胤全集』別巻）によると明治 2 年 9 月 14 日に入門しています。井上頼圀は門人姓名録の野口大膳に対し〔予門人、荻野吟子ノ姪〕と記しています。また『熊谷人物事典』の「野口秀一郎」項に「…継祖母が女医荻野吟子の実姉であった影響か息子秀一郎は医師を志し、…」とも書かれています。私は田中かく子が荻野吟子ばかりか野口家とも交流があったような気がしています。

ふたつめは東京都教育史によると、明治 8 年に荻野吟子は「荻野塾」を開校しています。資料では、のちに女医になる荻野吟子がどういう教育を行ったのか、なぜ短期に閉校したのか不明であるとしています。しかし、『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』を読んだ人なら、この謎を解くカギが手紙から推測できるでしょう。

もうひとつ加えれば荻野吟子の医療治療に対してです。手紙を読みますと田中かく子が病気になったとき荻野吟子は漢方医法の助言を与えている事実です。西洋医学を学んだ荻野吟子は権田直助や早川舟平や井上頼圀を通して東洋医学も相当身に付けていたと思われる点にも私は興味が惹かれます。

余談ですが奈良原春著作『荻野吟子抄』（妻沼町三十周年記念誌）によって田中かくの手紙が紹介されました。荻野吟子に関する本のなかで愛情込めて書かれているのは奈良原春氏作品だと私は思っているのですが、その奈良原氏に田中かくの手紙の存在を紹介したのは浅見徳男氏でした。今回『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』刊行をいちばん喜んでるのは天国の奈良原春作かも知れない。こよなく荻野吟子を愛していた奈良原氏と田中かく子を愛してやまない浅見徳男氏の郷土史家同志との美しい出会いにも私には縁の不思議、歴史の面白さを覚えます。

浅見徳男氏のセミナーで田中かく子が荻野吟子や井上頼圀に関わることに感銘をうけた梶田通子氏が、田中かく子をめぐる女性達を探求することによって現代の女性に人生の指針を与えるという熱い情熱に私は感動し、この度『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』刊行のお手伝いをする事になりました。お釈迦様は「縁なき衆生は救いがたし」と言いました。井上頼圀の門人を尋ね

歩く私は縁ある幸せな衆生の 1 人かなと思うこの頃です。

(本橋 良浩記)



著書紹介：

浅見徳男著

『明治の女丈夫 田中かく子の生涯』

頒価：2,000 円

申込先：〒175-0082 板橋区高島平 5-34-9

オフィス恒春 (代表：本橋良浩)

TEL/FAX：03-3979-3691



ホットラインニュース

2009 年 2 月 6 日～8 日 With you さいたま

With you さいたま フェスティバルに参加しました。今年飯能の明治の偉大なる田中かく子と女医第一号の荻野吟子の交流を中心に活動を展示して、たくさんの方の関心を寄せていただきました。基調講演は講師：兵藤ゆきさんなどお迎えいたし、ますます活気あふれるセミナーや展示となりました。



2009 年 1 月 30 日 エコツアー大賞祝賀会

飯能市・飯能市エコツアーリズム推進協議会は、2008 年 11 月 28 日エコツアーリズム大賞を受賞し、環境省より表彰されました。



21 年 1 月 30 日 (金) 飯能でも祝賀会が開催され、エコツアーの質を確保するための仕組みを確立している、ガイド養成講習会、人材育成やガイドのスキルアップ、地域ぐるみでエコツアーリズムを推進し、全国の先導役となっていることが評価され、我々スタッフも参加して、喜びを分かち合いました。



吾野宿再生と吾野を語る会に参加



2009 年 8 月 1 日に吾野宿再生と吾野を語る会に参加しました。飯能市の北西部に位置する吾野・東吾野の両地域は、緑豊かな森林や清流【高麗川】が流れ、多くの貴重な歴史文化資源に恵まれている。そして明治、大正時代の貴重な木造の建物が残されている吾野宿もそのひとつ。秩父などへ行きかう人々が疲れを癒しに立ち寄った足跡が、いまだに当時のままで【昔馬で行き来していたので、どの家の玄関先にも馬をちゃんと待たせる寄せ場があるんだよ】という言葉が非常に印

象的でした。

そこでもう一度、この地域が若者や観光客、U ターン人材の視点や知恵を活かせる場・機会を創生したりして活性化を図りたいという目的で立ち上げられ、我々も参画して闊達な意見交換を行ないました。

(国土交通省【新たな公】によるコミュニティ創生支援モデル事業)



## 2010年の活動予定

### ◇2月5日(金)～7日(日) 第8回 With you さいたま

キャッチフレーズは、【それぞれの個性を力に共同参画】

2010年2月5日(金)～7(日)に開催される、with you さいたまフェスティバルに参加します。今年は実行委員!! 埼玉県のマスコット「コパトン」に入るよ!! コパトングッズも置いてあるよ。楽しいよ 是非来てね!!

ワークショップ&展示(講演会、シンポジウム、朗読、パフォーマンス) 展示(写真パネル)、女性起業家展示見本市 埼玉県女性キャリアセンターなど

講演 2月7日(日) 14:00～15:00

「今、考えなければならぬ大事なこと 一 格差・貧困を超えて」

講師：竹信美恵子(ジャーナリスト)

### ◇2月21日(日) 生涯学習フェスティバル

飯能市主催の生涯学習フェスティバル<飯能の魅力満載>に参加予定です。基本理念の一説 “ひとをうなう” まちをうなうから「UNA UN A フェスタ」をメインテーマに今年も飯能市市民会館にて開催されます。何かに出会う、仲間づ

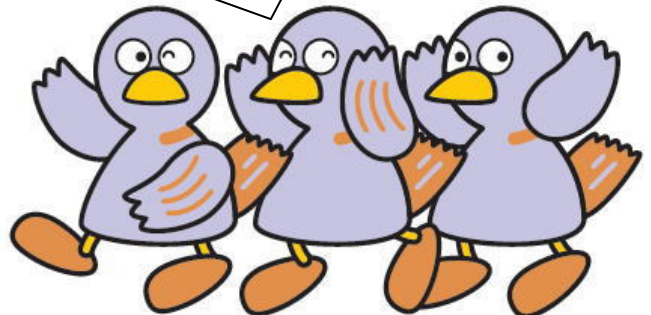
くりなどよい機会です。是非いらしてください。

### ◇4月11日(日) 総会と「鎌倉街道訪問」

埼玉県内などいろいろ訪ね歩くとその時代、時代を走り抜けた武将や偉人たちの足跡がたくさん残されています。飯能とも深く関わっています。今回は外にも目を向け、“いざ鎌倉～鎌倉街道を訪ね歩こう～(上道コース)として、毛呂山町歴史民族資料館～川本町の武蔵武士:畠山重忠～寄居 鉢形城そして「北条まつり」見学などバスで訪問いたします。詳しくは追ってホームページなどでご連絡いたします。



ぐるーぷ倶楽志の活動って面白いね。  
私達も参加しよ～っと。



埼玉県のマスコット「コパトン」

【会報編集】渡部直也(人間支部)が担当しました。



・ ・ あなたも、ぐるーぷ倶楽志 in 飯能に参加しませんか ・ ・

地域文化を大切に、広く伝え、育むことを目指す「ぐるーぷ倶楽志」

飯能市地域は古い歴史と自然に恵まれており、特色ある文化を育んできました。

特に、住む、着る、食べる、の衣食住は欠くことのできない大切な文化です。

私たちは、地域文化を、**俱**に、**楽**しむ、**同志**として多彩な文化交流を目指します。

そして、地域文化を学習すると共に、これを発信する場として交流を深めます。

※ 連絡は、**梶田(スギタ)**<電話 042-974-3538 携帯 080-3456-2623>まで 入会金 1,000 円